

●● 共生する暮らしへの、2歩目

にほめ

秋もおすすすめ！ 登山の魅力！

田貫湖ふれあい自然塾通信 vol.124

2025年10月発行

田貫湖ふれあい自然塾通信 124号



自然塾の縁の下の力持ち

ふれあい自然塾は、皆さまを迎え入れるためにさまざまな取り組みをしています。おもしろい館内の仕掛けや学びのある自然体験を企画するのもそのひとつですが、人知れず、でもない確実に困る取り組みの一つが「施設整備」です。草が伸びてくるのは、砂漠化の進む地域がある中で世界的には恵まれていること。けれど、畑に生えてくる草が困るように人が利用する場所が草ばーばーでは困ってしまいます。そこで！暑い中でも草を刈ってくれている人たちがいます。この人がいなくなったら、自然塾は今頃もう草地から森に変わってしまっていたことでしょう。感謝！



今日も汗びっしょり！お疲れ様です！



ニクム：ちょびひげ
最近、生まれ故郷がなくなったことを知りました。ビックリ！

なるほど！発見！自然を楽しむ『展示クイズラリー』登場！

「葉っぱってなんで赤や黄色になるんだろう？」
「虫ってなんで鳴いているんだろう？」
身の回りにある自然に疑問を感じた経験はありますか？そんな身近な自然の不思議を解決してくれるのが自然塾館内にある展示の数々。自分で扉を開いたり、動かしたりできるところがおもしろい！！そして、その展示をもっと楽しむために用意したのが「展示クイズラリー」です。展示に関するクイズに答えるとステキなプレゼントが！ああでもない。こうでもない。自分で考えて答えを発見することは想像以上の学びがあります。『展示クイズラリー』はいつでもあなたの挑戦を待っています！



新しいことを知ってワクワクしませんか？！



ニクム：ろっきー
「一生勉強」「生涯現役」これからも学び続けます！



おいらは一生懸命生きてるだけなんだけどなあ

開館カレンダー

11月							
日	月	火	水	木	金	土	
							1
2	3	4	5	6	7	8	
9	10	11	12	13	14	15	
16	17	18	19	20	21	22	
23 ₃₀	24 ₃₁	25	26	27	28	29	
12月							
日	月	火	水	木	金	土	
	1	2	3	4	5	6	
7	8	9	10	11	12	13	
14	15	16	17	18	19	20	
21	22	23	24	25	26	27	
28	29	30	31				

●は休館日です

●は休館日です

お問合せ

田貫湖ふれあい自然塾

開館時間 9:30~16:30

休館日

4~10月毎週月曜日（祝日の場合は翌日）

11~3月毎週月・火曜日・年末年始

※9月、1月に臨時休館あり

〒418-0107

静岡県富士宮市佐折633-14

Tel:0544-54-5410

<http://www.tanuki-ko.gr.jp>

車でお越しの場合は

東名高速富士IC→西富士道路→国道139号線→田貫湖（約40分）

中央自動車道河口湖IC→国道139号線→田貫湖（約40分）

電車でお越しの場合は

最寄り駅・富士宮駅（身延線）→休暇村富士行きバス（約40分）

→休暇村富士→徒歩3分で田貫湖ふれあい自然塾



視点



生命誕生から約四十億年
生き物たちは
変わり続ける環境に適応するために
様々な変化を遂げてきた
人もまた例外ではないだろう
SNSの普及
情報の多様化
AIやロボットによる作業効率化
人々の生活は便利になる一方で
自ら考えることや変化する機会を
失っているのではないだろうか
変化する環境を受け入れよう
そして、考えよう
変わり続ける未来を
生きるために

未来を生きるための変化

contents

02 視点:未来を生きるための変化

目まぐるしく変化し続ける世界。
大切にしていきたいこととはなんだろう。

特集

03 登山のススメ

紅葉が美しい秋は、登山にぴったりの季節。
故郷・佐渡での思い出から、コロナ禍での
経験を経て感じた自然への魅力。今からでも
始められる登山の楽しみ方を紹介します。

05 地域でつくる 未来の笑顔

地域の里山を活かした
『その人らしくあるための居場所作り』
自然体験で育まれる心の豊かさとはなんだろう。
そこに込められた住職の熱い想いに迫ります。

06 たぬきの道草

のんびり歩いて愉しもう。
お散歩気分の自然観察日誌。

07 自然塾のホットNEWS!

自然塾のホットな“今”をお届け！
あつあつのまま召し上がれ。



田貫湖ふれあい自然塾について

皆さんこんにちは。季刊誌「にほめ」を読んでくださってありがとうございます。
私たち『田貫湖ふれあい自然塾』は、田貫湖のほとりにある入場無料の施設です。
「生き物と暮らしの体験館」をテーマに、広々とした館内で雄大な富士山を眺め
ながら、雨の日でも「溶岩洞窟のジオラマ探検」や「生き物さがしラリー」など
自然を楽しむ多くの『体験』をすることができます。
「にほめを見たよ!」と言っていただければ、ステキなプレゼントも!!
ぜひ、一度いらしてみてください。スタッフ一同お待ちしております。



スタッフ
はやびー／ろっきー／ちょびひげ／たまちゃん

monthly shot

秋の食べ物と言ったら「キノコ」!
キノコ狩りに行く方も多いのでは
ないでしょうか?その時に気にな
るのは、食べられるかどうかで
すよね。例えば、写真のキノコ、食
べられると思いますか?答えは、
×。カエンタケ(火焰茸)と呼ばれ
る毒キノコです。炎に似ているた
め、その名をつけられました。く
れぐれも毒キノコにはご注意ください!

表紙:

稜線の紅葉が綺麗な山の写真。こ
ちらは、山形にある朝日連峰です。
大学のワンダーフォーゲル部で登
った山の中でも、特に紅葉が美し
い場所でした。秋は暑すぎず登り
やすく、紅葉も見れて、最高の季
節です。ぜひ、ご家族や友人と、山
に登ってみてはいかがでしょうか。

寒い日はたき火で
暖まろう!



オウムの祖先が登場したのは
約3億年前なんだぜ!!

地域でつくる 未来の笑顔



「地域でつくる、未来の笑顔」

長久山妙泉寺の住職である川手正順さんは、お寺の裏山を活かした「寺子屋」の活動を通じて、子ども達に自然や命の尊さを伝えていきます。今回は川手さんの取り組みから子どもと地域、そして自然とのつながりについてお話を伺いました。

自然と子どもをつなぐ「寺子屋」の森

二〇〇九年に住職を継いだ川手さん。子どもの頃、お寺の裏山はイノシシとシカの住処で、「入ってはいけない場所」でした。住職となり改めて裏山に入ってみると、柚野の村を一望できる素晴らしい景色が広がっている事に気づきます。「この場所を子ども達の遊び場や学び場にできないか」と考えた川手さんは、地域の人の協力を得て、杉林を広葉樹林に植え替え、地元



▲寺子屋活動の様子

産の材木を使った「東屋」やベンチを造り、「寺子屋森の広場」を完成させました。ここでは、野外で虫や植物に触れ、森で遊びながら、仏教の教えに触れる事ができます。

心に「気づきの種」をまく

川手さんがこの活動を通じて子ども達に一番伝えたいのは「一命を大切に」する心。とお互いを思いやる気持ちです。虫や草木を観察する前には、皆で手を合わせ、静かに目を閉じる時間を設けます。

「手を合わせるのには命を敬う事。むやみに虫を殺さない事。」また、活動の中では子ども同士がお互いを思いやる場面も数多くあります。自分が捕まえた虫や植物を「順番だよ」と友達に譲ってあげたりする姿は、自然の中で生まれる会話や関わり合いの中に「お互いを思いやる心」が育まれているのを感じさせます。こうした事はやがて忘れてしまいかもしれません。しかし、川手さんは「それが「気づきの種」になる」と語ります。「子ども達は成長の過程で、ふと

「あの時手を合わせたな」「生き物との出会いを共有したな」と思い出す日が必ず来るはず。その小さな気づきが、将来自分や他者を大切にすることに繋がっていく信じています。」



▲地域の人と取り組んだ寺子屋づくり

日常の中に

「未来の笑顔」を見つける

お寺は本来人々が集い、心を整える場所でもあります。法事や葬儀のためだけでなく、生きている間にこそ訪れてほしいという川手さん。「里山と人のご縁をつなぐお寺」として、今後も地域の人々と一緒に「未来の笑顔」をつくる活動を続けていくとの事です。

忙しい毎日の中で、未来の笑顔を大切にす為私たちができる事について、川手さんはこう教えてくれました。「まずは自然の中で



▲寺子屋完成!!

から多くの人がとって、心が動く場所であり続ける事を願っています。

川手正順さん



長久山妙泉寺住職。お寺の裏山を「寺子屋森の広場」として整備し、自然体験を通して子どもたちに命の尊さを伝えている。

お話を聞いた人

田貫湖からの自然のたよりをお届け！

たぬきの道草

日本に帰ってきたよ！

十一月は、海外から田貫湖へ冬を越すために渡り鳥が帰ってくる時期です。いち早く会えるのがジョウビタキ。彼らは冬の食糧確保を左右するなわばりの確保に必死！そのため、近づいてもあまり逃げないので観察のしやすい鳥です。お腹のオレンジが目立ち、尾を振る姿が愛らしい。よく枝に留まって甲高い声で「ヒッヒッ」と鳴いているので、ぜひ探してみよう。



どうして紅葉するの？

田貫湖の紅葉は十一月中旬が見頃。真っ赤に染まる力エデや鮮やかな黄色のコナラなどで素敵な景色が広がります。でも、なぜ木々の葉は紅葉をするのでしょうか？それは葉っぱを落とす途中に起きること。衣替えをして冬を生き抜くための準備をしているのです。必死に生きている姿は、種を越えてやり胸を打つものがあるのでしょうか。あの鮮やかさに思わず見とれてしまいます。



山歩きも、みつけ！

秋は、みのりの季節。農村では黄金色の稲穂がこころを垂れて、栗がボトリと落ちる時期。今回ご紹介したいのは、山を歩いていても意外と気づかないけど、とってもおいしい実。それはヤマノイモのむかごです。ポリポリ歯ごたえがあって、ほんのり山芋を感じるおいしさ。つる植物でハート型の葉っぱが特徴だから探すのは簡単！ぜひ散歩がてら、探してみてください。



おつかれさまでした！

写真の木は「常緑樹」の仲間。ヒノキ。漢字を見て、葉っぱを落とさないのでは？と思つた人、そうではありません。若い葉っぱが生えてきてから年々古い葉っぱが枯れて落ちるので、結果としてずっと緑であるように見える木なのです。その葉っぱを落とす時期が秋。古い葉っぱに老廃物を貯めて切り離します。もし落葉を見かけたら、おつかれさまでした！と声をかけてあげてください。



秋もおすすりめ！ 登山の魅力



「○○の秋」に皆さんだったら、何をいれますか？ 今回の特集では「スポーツの秋」をテーマに、『登山』の話をしたいと思います。紅葉の綺麗な秋は登山に適した時期です。高山は雪山になりますが、里山は秋が一番です。涼しくなつて登りやすくなつた今、家族やお友達と山に登ってみませんか？

文：高橋 雅子

私が登山を

好きになつたきっかけ

私の地元は、新潟県の佐渡島です。島に大きな山があるの？と疑問に思つた方もいるかもしれませんが、佐渡には大佐渡山脈と小佐渡山脈があり、最高峰は一七二mの金北山、そして次に九四〇mのドンデン山（尻立山）があります。佐渡は、クマ、イノシシ、シカなどの大型哺乳類がおらず、一番大きい獣はテンやタヌキです。そのため、食害もほとんどなく、豊かな植物たちが生育しています。

小中学生の時には、毎年秋に行事で登山があり、私はその登山が楽しみでした。金北山とド

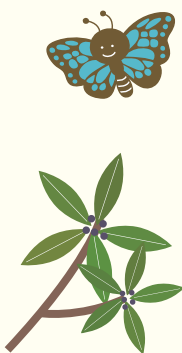
ンデン山を交互に登つていたのですが、その中でもドンデン山が好きでした。ドンデン山には、今はいないけれど、当時は牛が放牧されていて、雄大な草原が広がっていました。そして、その途中にあるアオネバ登山道は、小川がキラキラして、沢山の植物があつて、そんな道を通るのが楽しかったです。無事に山頂に到達して、山の上からの景色を見ながら友達と食べる、お母さんが作ってくれたお弁当は、最高に美味しかったです。

学校の登山以外でも、地域の登山会で、生き物に詳しい先生に教えてもらいながら登つた登山も印象に残っています。そこ

大学になって再び

登山に目覚める

私が大学に入ったころは、新型コロナウイルスが始まつた時期で、一二年の時はリモートの授業が多く、閉鎖的な環境で勉強をしていました。そんな二年生の



夏、久しぶりにドンテン山に行つて、景色を見ているうちに、「自然は癒される。好きだな。」と改めて感じました。それを機に、専攻を化学から生物に変更しました。三年になると、コロナも落ち着き、野外実習も増え、楽しくなつてきました。その後、公開実習で北海道や屋久島にいき、そこでの人との出会いや、自然の美しさに感動しました。

それから、大学のワンダーフォーゲル部に入りました。大きいザックで縦走して、テントを立てて、ご飯を一から作るというたことをしており、仲間とそういった自然のなかでの楽しさを共有できることに、ワクワクしました。また、地域の山友会にも入れてもらい、普段関わらない世代の方と一緒に山に登ることができ、お花のことを教えてもらつたり、登る過程の楽しさを分かち合うことができました。山にハマつてからは、一人で登ることもありますが、他の登山者と共通の話題で盛り上がり、

秋の山の楽しみ方

途中からは、誰かと登っていることが多いです。そんな山での出会いや雰囲気は好きです。もちろん、山ならではの高山植物を楽しんだり、雲海や頂上からの景色を楽しむことも登山の醍醐味の一つです。

秋は、涼しくなつて、登りやすい時期です。そして、里山では、紅葉がきれいに見えます。秋は寒暖差があるので、低山でも盆地のような地形の場所では、雲海を見ることが出来ます。大きい山に登ることだけが登山ではないと思います。身近にある里山に、お弁当をもつて、ピクニックに行くのもとても楽しいです。

この本を読んでいるみなさんは、たまたま見かけて読んでいる方から、家族で自然塾に来ている方までいらつしやると思います。一言に家族と言っても、小さな子どもがいるお父さんお母さんから、中高生の子どもがいる家族、大学生や社会人にな

つて離れて暮らす家族など様々です。どのライフステージにおいても、自然体験というものは、良いものだと思います。自然の中では、大人も童心に返り、楽しさや美しさを共有できたり、大切な思い出として心に残っていくと思います。また、私の知り合いの山友会の方も退職してから始めた方も多かったです。山はいつからでも始められます。「行つてみようかな。」そう思つた時が吉日。ぜひ、この秋に登山を始めみてはいかがでしょうか。

